

令和2年 上半期

火災・救急・救助の概況



NIIGATA JOETSU AREA FIRE DEPT.
上越地域消防事務組合

目 次

火災概況	2
1 火災発生状況.....	2
2 出火原因	3
3 火災による死傷者.....	4
4 損害額の推移	4
5 住宅用火災警報器.....	5
救急概況	7
1 救急出場状況.....	7
2 救急搬送人員	9
救助概況	10
1 救助出場状況.....	10
2 救助人員	11

火災概況

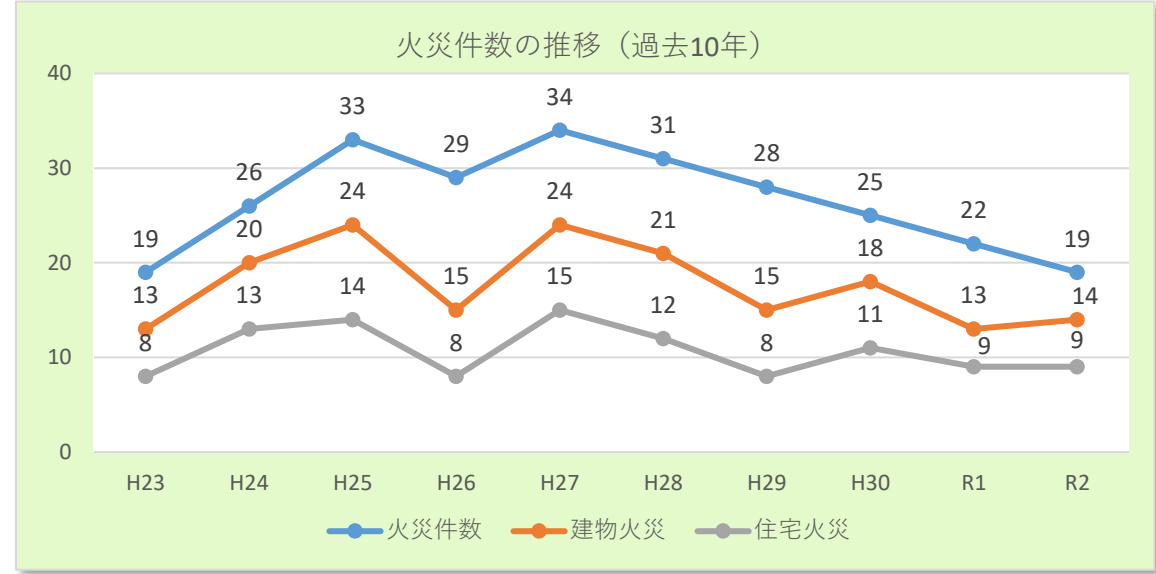
1 火災発生状況

令和2年上半期火の火災発生件数は19件で、過去10年間では平成23年と並び過去最少となりました。火災種別では、建物火災が14件と最も多く、そのうち住宅火災は9件でした。

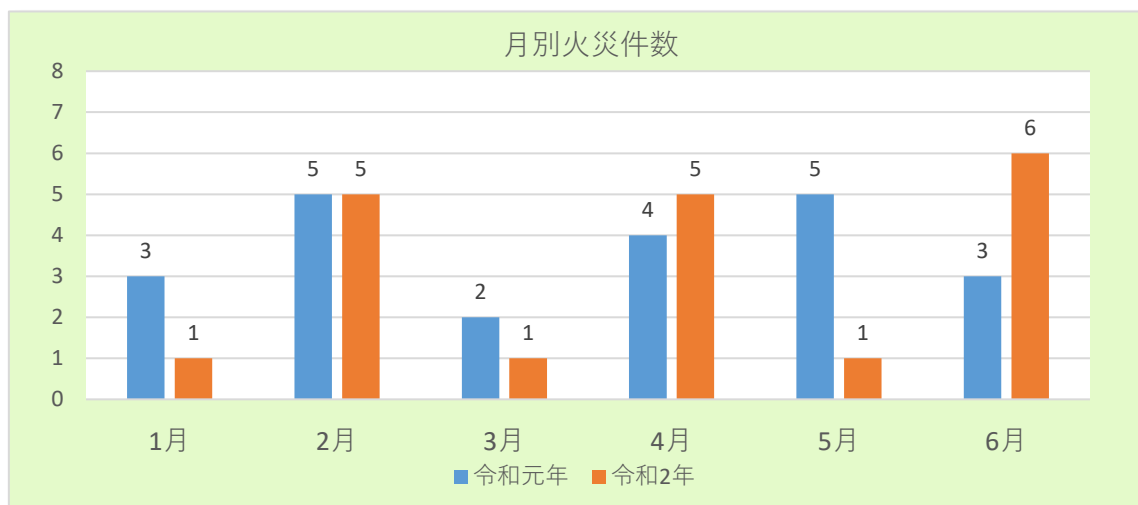
1-1表 上半期火災発生状況

	令和2年 (件)	構成比 (%)	令和元年 (件)	構成比 (%)	増減 (件)
火災件数	19	100.0	22	100.0	△ 3
建物火災	14	73.7	13	59.1	1
住宅火災	9	(64.3)	9	(69.2)	
林野火災			1	4.6	△ 1
車両火災	1	5.3	3	13.6	△ 2
その他火災	4	21.0	5	22.7	△ 1

1-1図 上半期火災件数の推移



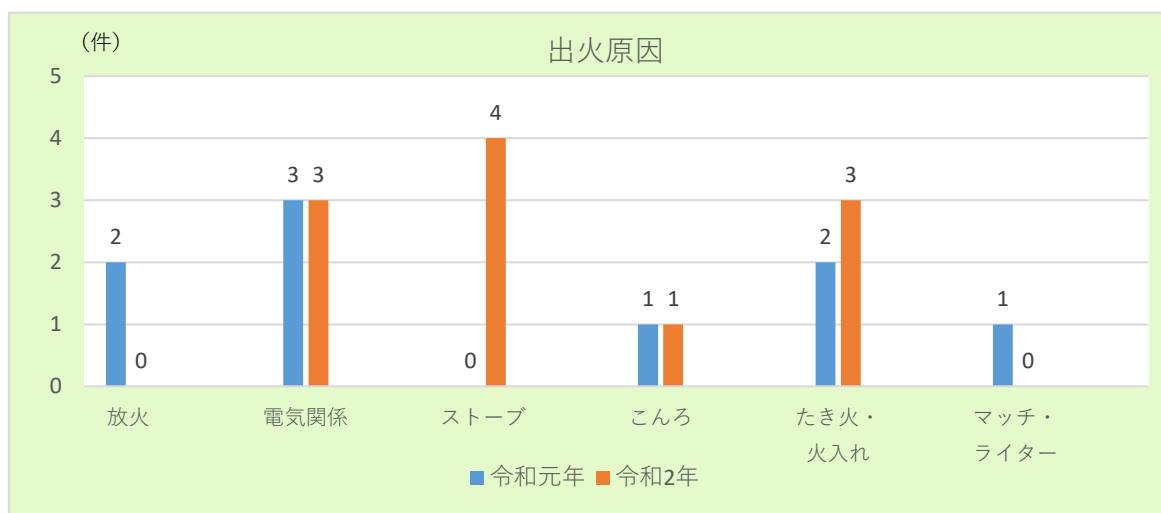
1－2図 月別火災発生状況



2 出火原因

令和2年上半期の主な出火原因を見ると、冬から春にかけての「ストーブ」が4件と最も多く、次いで「電気関係」「たき火・火入れ」が3件でした。放火による火災はなく、出火原因が特定に至らない火災は6件でした。

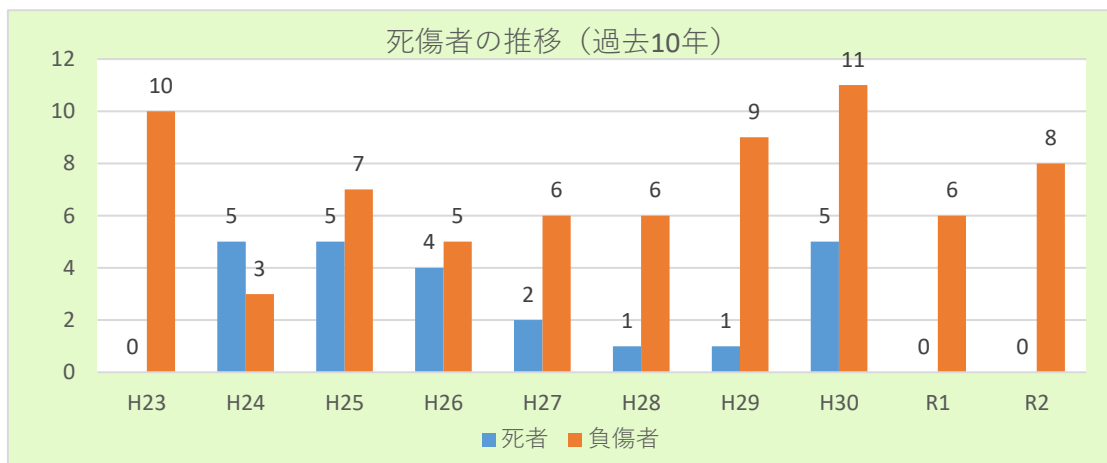
1－3図 上半期火災の主な出火原因



3 火災による死傷者

令和2年上半期の火災による死者はなく、令和元年から死者は出ていません。負傷者は8人で、煙を吸う、手足に火傷を負うなどの軽傷が大半を占めました。

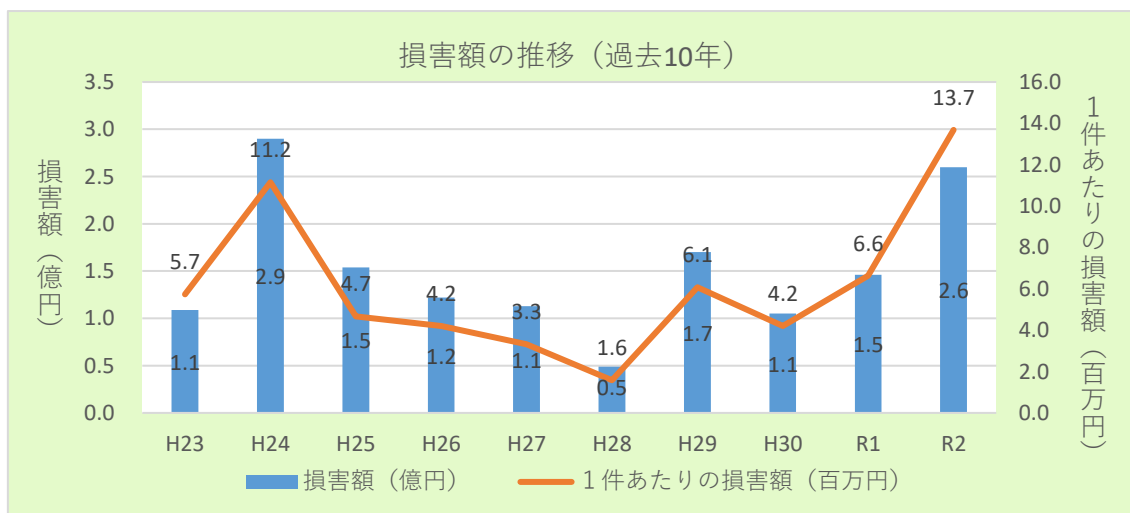
1－4図 火災による死傷者の推移



4 損害額の推移

令和2年上半期の損害額は、1件あたり1,370万円で、過去10年で最も大きくなりました。2棟以上が全焼する規模の火災が複数発生したことによると考えられます。

1－5図 損害額の推移



5 住宅用火災警報器

令和2年7月1日時点における上越地域消防管内の住宅用火災警報器（以下、「住警器」という。）の設置率は97.2%、条例適合率は75.0%でした。また、作動確認を実施した世帯のうち、全体の5%に何らかの不具合が見つかりました。

※設置率：火災予防条例で設置が義務付けられている住宅の部分（すべての寝室と、寝室が2階にある場合は階段の上部）のうち、1か所以上設置されている世帯の全調査世帯に占める割合

※条例適合率：火災予防条例で設置が義務付けられている住宅の部分（すべての寝室と、寝室が2階にある場合は階段の上部）のすべてに設置されている世帯の全調査世帯に占める割合

※不作動率：作動確認をした世帯のうち、点検時に電池切れや故障等の不具合があった割合

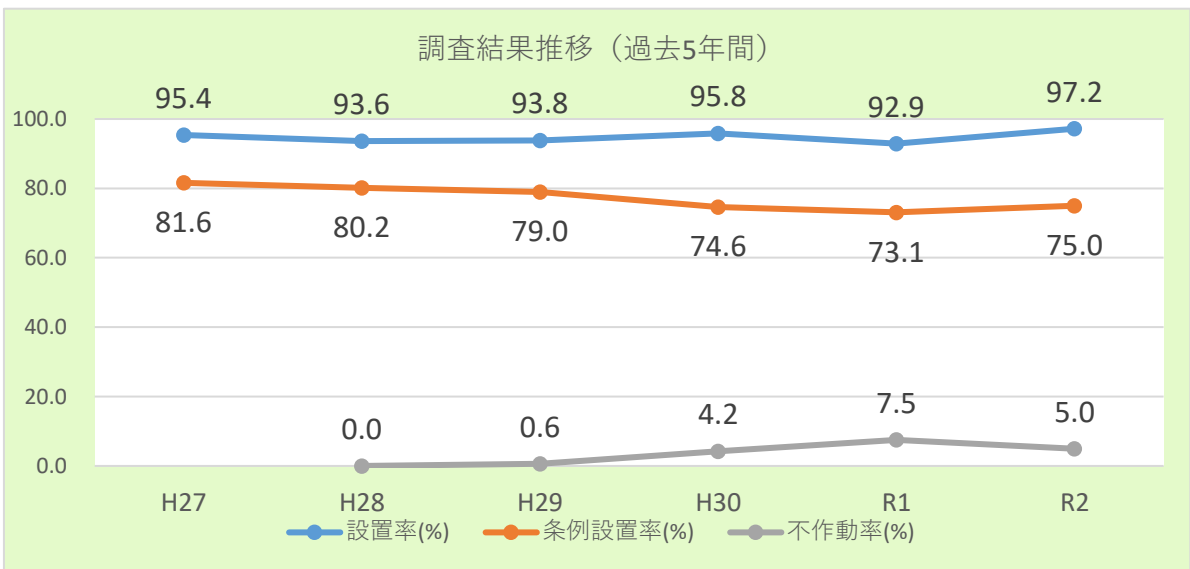
1-2表 住警器設置率

	令和2年	令和元年	増減
設置率	97.2%	92.9%	4.3%
条例適合率	75.0%	73.1%	1.9%
不作動率	5.0%	7.5%	△ 2.5

※基準日は例年6月1日時点ですが、今年は新型コロナウイルスの影響により、7月1日時点となっています。

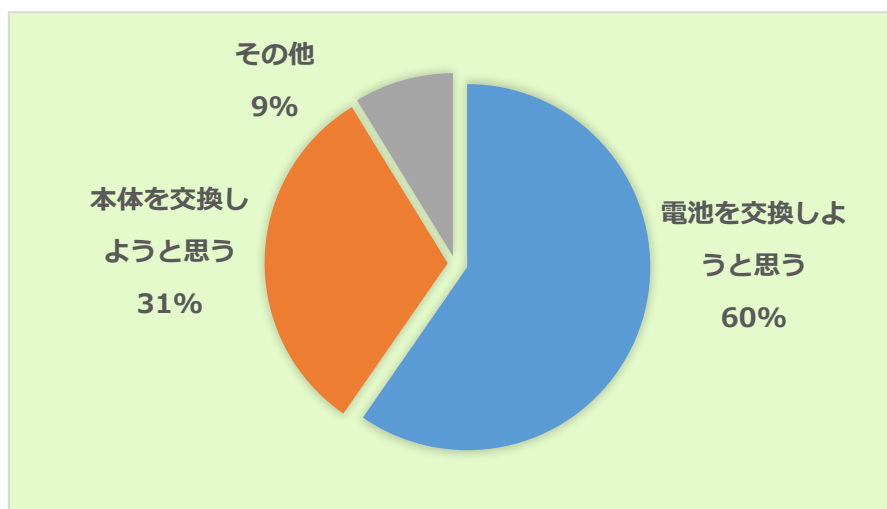
過去5年間の調査結果推移をみると、設置率は95%前後である一方で、電池切れや故障といったいわゆる「不作動」率が上昇傾向にあります。一般的な家電製品と同様、交換の目安は10年です。平成23年の法制化後、速やかに設置した世帯では、既に機器が寿命を迎えている恐れがあります。

1-6図 住警器設置率調査結果の推移



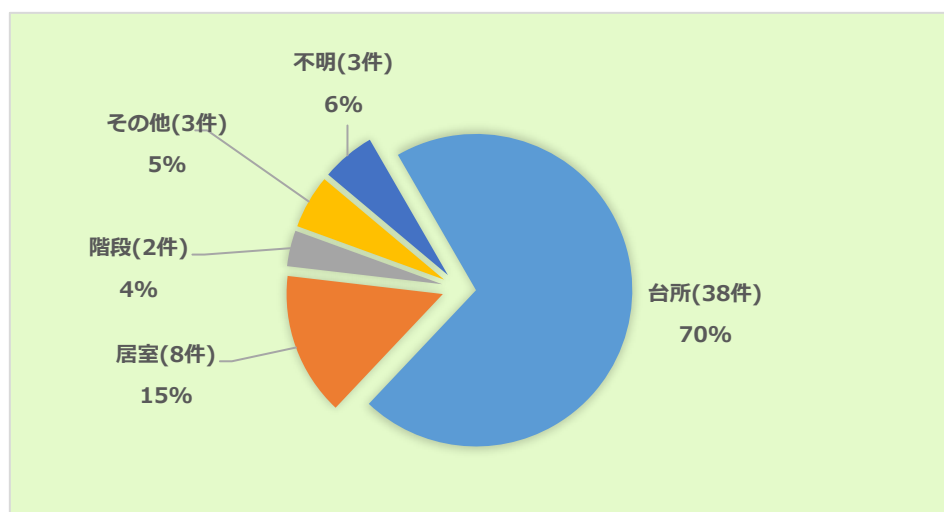
設置率調査時のアンケートでは、既存機器の不作動が発覚した際、多くの方が「電池を交換する」と回答しました。電池を新しくしても内部の電子部品が古いままでは、いざという時に正しく作動しない恐れがあります。製造から10年を目安に、本体を新しい機器へ交換するとともに、その際は、家中どこでも火災に気づける「連動型」住警器への切り替えを推奨しています。

1－7図 不作動時の対応についてのアンケート



住警器が奏功した事例は、平成18年から合計54件報告されています。このうち70%にあたる38件が台所での奏功例であることから、台所への設置も火災の被害を軽減するために有効であるといえます。

1－8図 奏功事例発生場所の割合



救急概況

1 救急出場状況

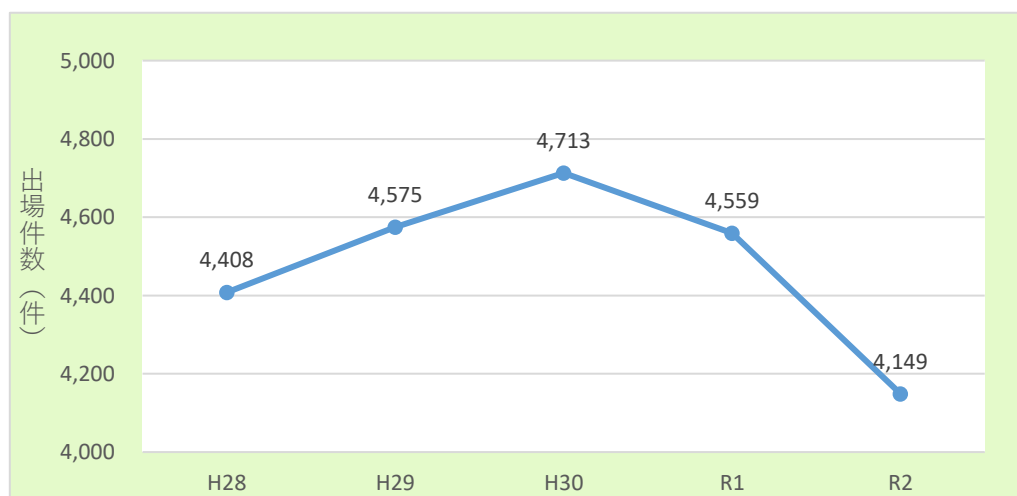
令和2年上半期の救急出場件数は4,149件で、1日平均23件、約63分に1回の割合で救急車が出場したことになります。

前年と比べ、出勤件数は410件、搬送人員は375人減少しており、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による外出自粛、手洗い、うがい、マスク着用の徹底など、市民の皆さまの健康管理の積み重ねによるものと思われます。

2-1表 上半期救急出場状況

	令和2年	令和元年	増減
出場件数	4,149	4,559	△ 410
搬送人員	3,969	4,344	△ 375

2-1図 上半期救急出場件数の推移



令和2年上半期 火災・救急・救助の概況

救急出場件数について事故種別で見ると、最も多いのが「急病」で2,541件、全体の61.2%を占めています。次いで「一般負傷」が771件で18.6%、「転院搬送」が503件で12.1%、「交通事故」が193件で4.7%を占めています。

2－2表 上半期事故種別救急出場件数

事故種別	令和2年上半期（件）	構成比（%）
急 病	2,541	61.2%
一 般 負 傷	771	18.6%
交 通 事 故	193	4.7%
労 働 災 害	50	1.2%
自 損 行 為	38	0.9%
加 害	18	0.4%
火 災	7	0.2%
運 動 競 技	6	0.1%
水 難 事 故	2	0.1%
自 然 災 害	0	0.0%
そ の 他	20	0.5%
転 院 搬 送	503	12.1%
合 計	4,149	100%

2－3表 上半期月別救急出場状況

	令和2年	令和元年	増減
1月	839	811	28
2月	694	742	△ 48
3月	700	742	△ 42
4月	644	780	△ 136
5月	650	775	△ 125
6月	622	709	△ 87

2 救急搬送人員

令和2年上半期の救急搬送人員は3,969人で、そのうち上越市が82.4%、妙高市が17.5%でした。また、全搬送人員のうち高齢者が占める割合は、70.7%となっています。

2-4表 上半期地域別救急搬送人員

	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者		計	構成比（％）
					高齢者割合（％）			
上越市	8	87	57	781	2,339	71.5	3,272	82.4
妙高市		11	18	201	466	67.0	696	17.5
他市町村				1			1	0.1
合計	8	98	75	983	2,805	70.7	3,969	100.0

※ 新生児：生後28日未満
 ※ 乳幼児：生後28日以上～7歳未満
 ※ 少年：7歳以上～18歳未満
 ※ 成人：18歳以上～65歳未満
 ※ 高齢者：65歳以上

全搬送人員に占める軽症者の割合は、平成28年以降、概ね45%前後で推移しています。引き続き、救急車の適正利用についてご協力をお願いします。

2-5表 上半期傷病程度別救急搬送人員

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
軽症	1,798	1,980	1,983	1,904	1,753
中等症	1,726	1,776	1,802	1,791	1,668
重症	494	494	507	519	429
死亡	110	115	132	129	119
その他	2				
合計	4,130	4,365	4,424	4,343	3,969

※ 軽症：入院を要しないもの
 ※ 中等症：生命の危険はないが入院を要するもの
 ※ 重症：生命の危険の危険性があるもの
 ※ 死亡：初診時死亡が確認されたもの
 ※ その他：医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの

救助概況

1 救助出場状況

令和2年上半期の救助出場件数は11件で、昨年より4件減少しています。また、出場件数のうち、活動件数は4件で、昨年より6件減少しています。

地域別の出場件数は3-2表のとおりです。

3-1表 上半期救助出場・活動状況

事故種別	出場件数			活動件数		
	令和2年	令和元年	増減	令和2年	令和元年	増減
合 計	11	15	△ 4	4	10	△ 6
火 災						
交 通 事 故	5	9	△ 4		5	△ 5
水 難 事 故	2	1	1	1	1	
自 然 災 害		1	△ 1			
機 械 事 故	3	1	2	2	1	1
建 物 等 事 故		1	△ 1		1	△ 1
ガス酸欠事故						
爆 発 事 故						
そ の 他 事 故	1	2	△ 1	1	2	△ 1

※その他事故：山岳事故、転落事故、宙吊り事故など

3-2表 上半期地域別救助出場件数

		救 助 事 故 種 別								出場件数		増 減	
		火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害	機 械 事 故	建 物 等 事 故	ガ ス 酸 欠 事 故	爆 発 事 故	そ の 他 事 故	令 和 2 年		令 和 元 年
上 越 市			5	2		3				1	11	14	△ 3
妙 高 市												1	△ 1
他 市 町 村													
合 計	令和2年		5	2		3				1	11	15	△ 4
	令和元年		9	1	1	1	1			2	15		
増 減			△ 4	1	△ 1	2	△ 1			△ 1	△ 4		

2 救助人員

令和2年上半期の救助人員は5人で、昨年より4人減少しています。

3-3表 上半期地域別救助人員

		救 助 事 故 種 別								出場件数		増 減	
		火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害	機 械 事 故	建 物 等 事 故	ガ ス 酸 欠 事 故	爆 発 事 故	そ の 他 事 故	令 和 2 年		令 和 元 年
上 越 市				2		2				1	5	9	△ 4
妙 高 市													
他 市 町 村													
合 計	令和2年			2		2				1	5	9	△ 4
	令和元年		5			1	1			2	9		
増 減			△ 5	2		1	△ 1			△ 1	△ 4		